

慶應義塾大学 商学部

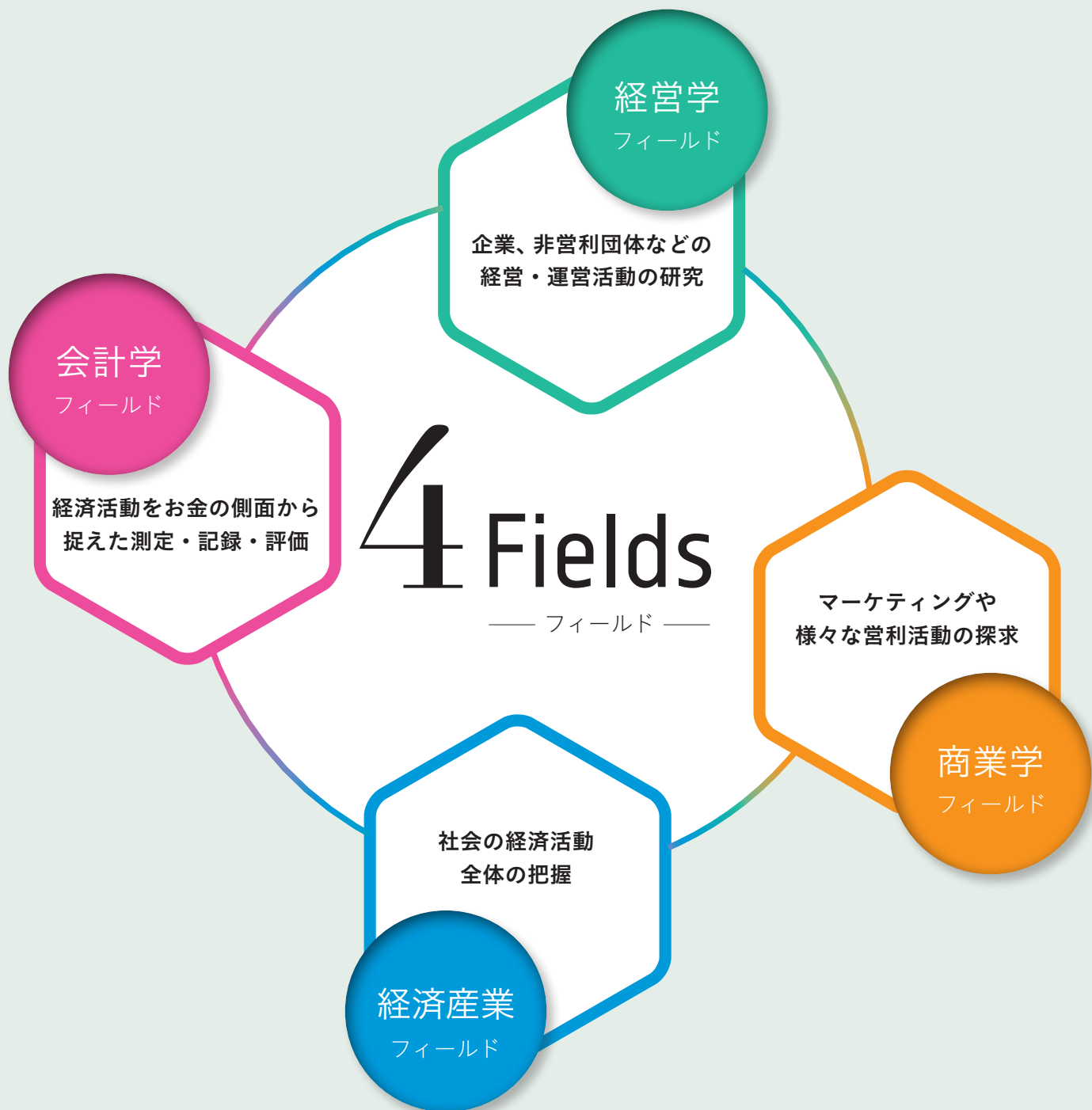


KEIO UNIVERSITY
Faculty of Business and Commerce



Faculty of Business and Commerce

商 学 部



動き続ける社会を捉え、進化させる
4つのフィールドを網羅する＜実学＞の体系化

問題に立ち向かい、社会の発展に寄与する 「人財」を育てる



商学部長
牛島 利明

少子高齢化、グローバル化、エネルギー問題など、現在の日本社会は大きな構造変化にみまわれています。しかも、その影響は経済・産業にとどまらず社会の多方面に及んでいます。

このような時代に求められるのは、高い倫理観と責任感をもちながら、現代産業社会が抱える諸問題を自ら発見し、解決案を提示し、かつ実行する能力を備えた、新しい社会を創造できるリーダーです。慶應義塾大学商学部はこのような「人財」を育てることを目標としています。

商学部は、慶應義塾創立100年を記念して1957年に誕生しました。しかし、その原点は、実学の重要性を説く福澤諭吉が、わが国会計学の先駆けとして明治初期に公刊した簿記書「帳合之法」に遡ります。商学部の教育・研究の中核を成しているのは、ものごとの道理を究明してそれを現実社会で活用するという、まさに福澤のいうこの「実学の精神」にほかなりません。

これから大学で学ぶ皆さんにとって重要なのは、将来の夢や目標の実現のためにも、広い視野に立って現実を冷静に分析し、ものごとの本質を見極める「実学の精神」を身につけることです。

例えば入試問題などで高得点をとれる皆さんは、いわば答えのある問題を解く能力に優れていると言えますが、現実社会で求められるものの多くは答えのない問題にどう対処するか、という能力です。そこで必要とされるのが自分の頭で考えるということです。

具体的には、問題の発見、仮説の構築、仮説の検証、主張の発信・実行といった一連の作業を通して、自分の頭で考え判断する力を磨くことが必要になります。商学部ではこのような教育を通して、社会の発展に寄与できる「人財」の育成を目指しています。

▶ 商学部の沿革

商学部は、近代大学として日本最古の歴史を誇る慶應義塾において、福澤諭吉の業績とともに生まれ、理財科として成長し、商学系統の学問の成熟を持って独立した学部です。

- 1873 ● 福澤諭吉がわが国会計学の先駆けとして、ブライアント＝ストラットンの簿記書を翻訳した「帳合之法」を公刊
- 1890 ● 「実業の世界に有用な器」を送るため、慶應義塾に商学関係の分野を重視する「理財科」を設置
- 1920 ● 理財科を経済学部へ改称。経済学系統と商学系統の科目群に分類される
- 1938 ● 経済学科と商学科を併置
- 1957 ● 商学部開設
- 1961 ● 商学研究科開設

福澤諭吉先生が
日本に初めて簿
記を紹介した書
「帳合之法」



出典) 慶應義塾福澤研究センター

▶ 商学部を知るキーワード

独立自尊

自己の判断・責任のもとに行動する剛毅の心を持ち、同時に他人を独立した個人として尊重すること。商学部では、そのための確かな基礎力を身につけます。

実学の精神

独立した一個人が必要な知識を蓄え、それをもとに自分で考え、現実社会で活用することを指します。商学部では実学をさらに展開する独自の授業を設置しています。

半学半教

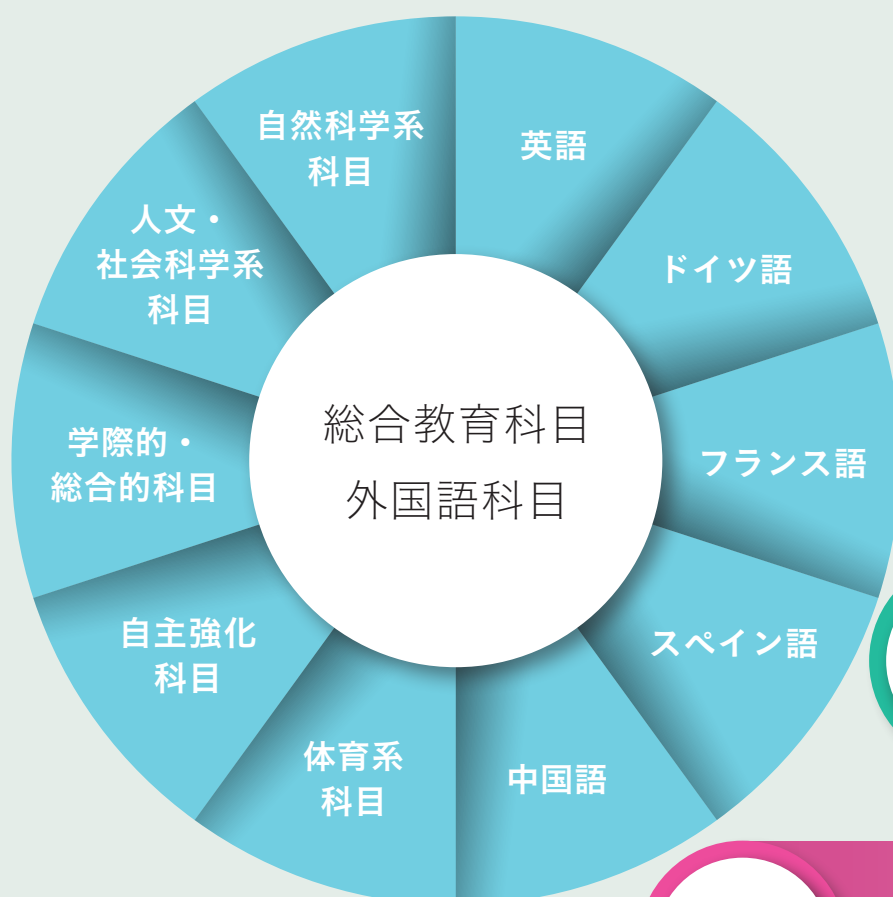
教える者と学ぶ者が相互に教え合い学び合う仕組み。1～2年次の総合教育セミナーや3年次以降のゼミナールでより実感できます。

Curriculum Concept

1・2 年次 [日吉キャンパス]

4つのフィールドの基礎をしっかりと固める

総合教育科目、外国語に加え、経営、会計、商業、経済産業の4つのフィールドを学ぶ上で不可欠な、基本理論や分析ツールを学び、専門分野への土台を築きます。



4 フィールド

経営学

企業や非営利団体の
経営・運営を対象に研究

A

会計学

経済活動の結果を
お金の側面から捉えた
測定・記録・評価

B

商業学

企業の創造する
生産物やサービスが
消費者にたどり着く
までの過程を研究

C

経済 産業

社会の経済活動全体
を対象に研究

D

特定フィールドの専門性を培いつつ、
幅広い知見・視野を習得

9分野

▶ フィールド・分野の概要

専門科目と少人数制の研究会（ゼミナール）などの演習科目の履修を通じて特定フィールドの専門性を磨きます。さらに、4フィールド・9分野の多様かつ充実した専攻科目を柔軟に履修できるため、専門性をよりいっそう磨いたり、他のフィールドの専門性も習得して幅を広げたりすることができます。

分 野		概 要	
A	経 営	企業経営や組織についての理論的また方法論的研究だけでなく、現代日本の企業に対する実証的・計量的研究を含めた広範な問題を扱っています。そこで扱われるアプローチもアメリカ経営管理論からドイツの経営経済学にまで及んでいます。	
B	会 計	洋式簿記の最初の紹介者である福澤諭吉を祖として、その伝統を守っています。財務会計、管理会計、会計監査を対象に、国際的、戦略的、歴史的観点から取り上げています。	
C	商 業	商品やサービスを中心として起こる市場の問題を、理論的・経験的に解明することを目指しています。その対象は、マーケティング意思決定、流通・小売、広告・コミュニケーション、サービス、消費者行動等々にまで及んでいます。	
経済産業	D1	国際経済	国際化時代の今日、世界経済と不可分の関係にある日本経済を見据えながら、貿易、資本移動、技術移転、国際通貨制度といった問題の理論的・実証的解明、政策的提言を図ります。
	D2	計量経済	理論とデータを使って企業や家計の行動を定性的・定量的に分析し、社会の変化に対応した市場や政策のあり方を考察します。
	D3	金融・保険	金融の分野は、個々の経済主体の金融問題から国民経済全体の貨幣的側面まで幅広く研究対象を包摂します。保険の分野は経済的保障のうちでもっとも重要な保険制度を対象とし、その制度の経済的、機能的、数理的な諸側面が分析の対象になります。
	D4	交通 公共政策 産業組織	資本主義経済における望ましい市場競争のあり方―競争と独占―を究明することを目指します。また、交通などの公益事業を取り上げ、政府規制のあり方を分析の対象とします。
	D5	労働・社会	仕事と暮らしの経済学です。具体的には個人の就業行動、企業の雇用行動、それらが調整される労働市場の分析です。またその中での労使関係、組織心理、さらに仕事と暮らしを社会的に支える社会保障などについても考えます。
	D6	産業史 経営史	経済生活の歴史を産業発展、経営活動、金融といった個別の視点から捉え、解明していくことを目指します。

得られるスキル

- 「商学」に根付いた高度な専門知識・分析ツール
- 社会全体を俯瞰的・中長期的に見わたす力
- 「半学半教」を実践しながら、自分の考えを形成し議論する力
- 実学の精神にもとづいた問題発見・解決能力
- グローバルコミュニケーション力

想定される進路

- ビジネスパーソン・起業家
- 公務員
- 専門職（公認会計士・税理士など）
- 大学院（高度職業専門人・研究者養成）
- 中学校・高等学校教員（社会、地理歴史、公民、商業）など

フィールド制のもと、目的意識に合わせて自律的・体系的に専門科目を履修できます。

課題やツールを切り口にフィールドを横断して学習する専門科目群「プログラム」（グローバル、政策・規制、実証分析手法など）も用意されています。

経済産業は1フィールドですがD1からD6の6分野から構成されています。

Curriculum

商学部での4年間があなたを成長させます

日吉での2年間で商学の基礎をしっかりと作り、三田で専門性を高めていきます。各フィールドを体系的に学んだり、各種プログラムを利用して横断的に知見を広げたりすることもできます。

1
学年

総合教育科目、外国語科目とともに商学の基礎となる科目、数学などを学ぶ。

2
学年

1年次の対象領域に加え、商学の専門知識を広げていく。

日吉キャンパス

さまざまな教養を高め
判断力を養成する

総合教育科目

- I 類 自然科学系科目
- II 類 人文・社会科学系科目
- III 類 学際的・総合的科目
- IV 類 自主強化科目
- V 類 体育系科目

→ 4年間を通して学べる

世界に向けたコミュニケーション力を養う

外国語科目

英語

ドイツ語

フランス語

中国語

スペイン語

※2カ国語履修

※自主強化科目および専攻・商学関連科目として外国語中・上級のクラスがある

商学の基礎を固める

基礎科目

I 類(基礎必修科目)

経済学基礎、経営学基礎、商業学基礎、会計学基礎、微積分基礎、統計学基礎

II 類(基礎選択科目)

微積分、線形代数、確率論、ゲーム理論基礎、経済史、私法、統計学

専門性を養う

専攻科目

I 類(専攻選択必修科目)

経営学(組織と戦略)、経営学(企業をめぐる諸問題)、商業学(マクロ・マーケティング)、商業学(ミクロ・マーケティング)、会計学(財務会計論)、会計学(管理会計基礎)、経済学(マクロ経済学)、経済学(ミクロ経済学)

II 類(専攻選択科目)

監査論、原価計算基礎、応用簿記、企業法、産業経済論

商学関連科目

自由科目

教授会が適当と認める科目等



3
学年

大半の学生が
研究会(ゼミナール)に所属し、
学校での活動が
研究会を中心に進む。

4
学年

専門性を追求し、
研究会の集大成として、
卒業論文を作成。

三田キャンパス



5年間で 学部、修士課程を修了する道

3・4学年での修士課程設置科目の
先取り履修と、修士課程の早期
修了制度を組み合わせることで、
学士号、修士号の両方を
5年間で取得することができます。

基礎力 を身につける

経済学・統計学・数学といった
基本的な理念および
分析ツールの学びや、
経済社会の時間的・空間的な視点、
経済社会を規定する
法体系の学習など
4フィールドを学ぶうえでの
土台となる科目です。



フィールド(専門領域)とプログラム(専門横断的課題)を軸に、体系的に知をみがく
Ⅲ類(専攻フィールド選択科目)

フィールド

A 経営	B 会計	C 商業	01 国際経済 02 計量経済 03 金融・保険 04 交通・公共政策・産業組織 05 労働・社会 06 産業史・経営史
------	------	------	--

プログラム(グローバル、戦略、政策・規制、実証分析手法、理論・学説史・実践史)

4フィールド 9分野

1・2学年で培った幅広い教養や
総合的な判断力を活かし、
各専門分野の多くの科目を
組み合わせて学びます。

半学半教の伝統でじっくり学ぶ

Ⅳ類(専攻フィールド演習科目)

研究会(ゼミナール)	研究演習	専門外国書研究	GPP Passport Members' Workshop
------------	------	---------	--------------------------------------

2年間のゼミナールで 研究に集中

「半学半教」の伝統を色濃く
受け継ぎ、少人数制で
専門的な知識を学びながら
自らの考えを形成し、
議論する訓練をします。

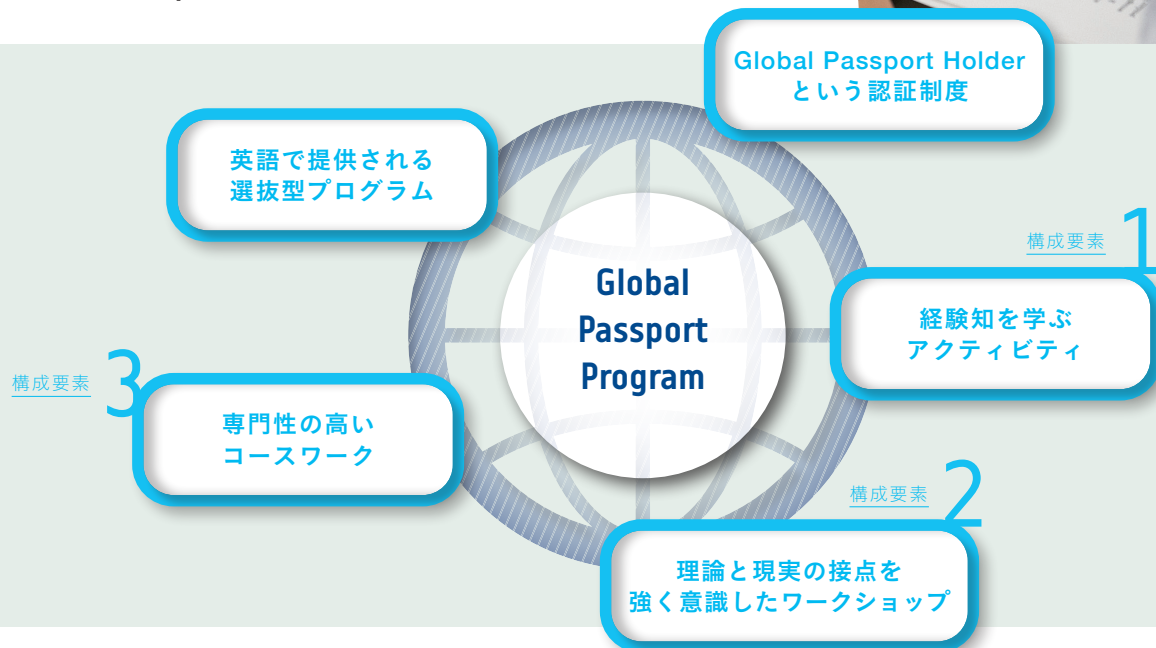
幅広い教養を演習形式を中心に学ぶ

商学関連科目

国際教養演習 外国語演習 社会数理各論	法学各論 経済学史	教授会が適当と認める 授業科目、または商学部設置 科目のうち商学関連科目 として履修申告したもの
---------------------------	--------------	---

Global Passport Program (GPP)

グローバル化への対応



～「世界の」未来を先導する志のために～

急速にグローバル化が進む現在、「世界の」未来を牽引するためには、より広い視野で世界の事象を理解し分析できる高い知見や、世界を視野に入れた課題に取り組むチャレンジ精神などが求められます。商学部では、このような時代に向けて、選抜された約40名の学部3・4年生を対象に商学にかかわる専門科目を英語で提供する「Global Passport Program (GPP)」を設置しています。

選抜された学生は、大学院修士課程レベルの内容を扱う科目からなる「Coursework」やゼミ形式でグローバルなビジネスや組織の中で現実にかかる様々な問題を解決するプロジェ

クトに取り組む「Workshop」を履修します。また、国際機関や企業のリーダーとして活躍するゲストを招いての講演会や工場見学、約1週間の短期海外研修などを実施し、グローバル企業や海外の大学との交流の機会を設けています。科目の多くは交換留学等で大学に短期的に滞在する留学生も受講するため、ダイバーシティ（多様性）のある刺激的な学習経験が得られます。GPPはキャンパスにいながらにして留学空間を体験できるプログラムで、世界に通じるリーダーを養成します。



GPPに参加するには？

各学期に実施する選考に応募し合格する必要があります。

選考は、英語試験結果（TOEIC、TOEFL iBT、IELTS）、GPA（成績評価）および自己PR動画を用いて行います。

修了要件を満たした学生には、Global Passport Holderとして塾長と商学部長の連名による認証が授与されます。

Double Degree Programs



Guanghua School of Management
Peking University



Keio Univ
1858
CALAMVS
GLADIO
FORTIOR

国際的なビジネスに従事する能力を 高めるダブルディグリー・プログラム

～ 海外名門ビジネススクールで学ぶ ～

商学部では、海外名門大学とダブルディグリー・プログラムの協定を結んでおり、現地の大学でさまざまなバックグラウンドを持った優秀な学生とともに学び、切磋琢磨する機会を提供しています。ダブルディグリー・プログラムに参加することによって、2つの学位を取得することが可能です。

北京大学光華管理学院

本プログラムは、商学部生（3・4年生）が北京大学光華管理学院に2年間留学することによって、慶應義塾大学と北京大学の両方から学位を取得できるものです。世界中の名門大学の留学生とともに学ぶことで貴重な経験が得られます。

プログラムに参加するには？

所定の書類審査と面接試験に合格する必要があります。各校毎年5名まで参加が認められます。

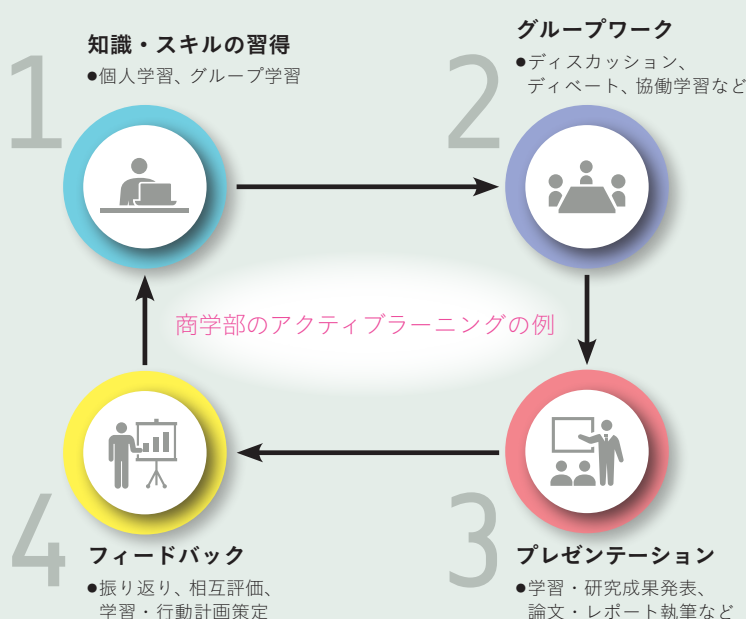
研究会での国際交流

商学部では国際交流を行う研究会もあります。例えば、2024年度は天津研究会と韓国成均館大学国際経済学部の学生による英語を用いたグループ論文報告会が成均館大学ソウルキャンパスおよび三田キャンパスで行われました。また、井口研究会がタイ・タマサート大学との合同研究を行い、現地で英語によるプレゼンが行われました。



Active Learning

アクティブラーニングの強化



～ 演習による問題発見・ 解決能力の開花 ～

商学部では伝統的に半学半教の精神を重視しており、研究会（ゼミ）や総合教育セミナーなどを通じた、演習形式のアクティブラーニング（能動的学習）に力を入れています。1～2年次には総合教育セミナーや実験科目、3～4年次には研究会や研究演習、国際教養演習、外国語演習、社会数理各論といった演習科目が豊富に提供されます。各フィールドの内容をアクティブラーニングで習得する研究会と研究演習については、履修期間が半期（2単位）から2年間（8単位）まで多様なタイプがあり、学習ペースや留学などに合わせて柔軟に選択することも可能となります。

日吉ライフ

慶應義塾の総合力を活かし 多彩な科目で幅広い教養を獲得する

1、2年次を過ごす日吉キャンパスでは、専門の基礎となる、極めて多彩な分野の科目を選択することができます。これにより、学問の総合的応用能力を養い、専門分野への基礎固めを行います。



総合教育科目

各分野の先端に行く研究者たちに直接接しながら、哲学、歴史、芸術から、物理学、生物学、天文学に至る多彩な知識に触れることができるのも、慶應義塾大学の総合力の強みです。文系学生に向けた自然科学の実験科目（化学、生物学、物理学）が充実しているのも、慶應義塾大学の総合教育カリキュラムの特徴です。また、上述の総合教育セミナーにも自然科学科系のテーマを扱うクラスが開講されています。

歴史(イスラーム世界の経済史)



生物学(実験)



音楽

総合教育セミナー

日吉の専任教員が担当する少人数セミナーです。学問の基礎となる書物やデータを読む、情報を精査する、レポートや論文を書く、発表するといった様々なスキルを身につけるための授業が展開されます。



異文化接触を考える (留学生セミナー)

この授業では、商学部に通う外国人学生と日本人学生がともに学び合っています。さまざまな価値観やバックグラウンドをもつ学生たちが、それぞれの考えをぶつけ合い、成長し合う機会となっています。



これまでの授業テーマ例

- 企業に関する総合的な理解
- 地域との対話
- 仕事とキャリアデザインについて考える
- 中国の歴史と思想を考える
- イグ・ノーベル賞研究会
- スポーツデータ分析の門前
- きものを作ろうー近代と前近代の衣服
- ラテンアメリカの歴史と現在
- 『言語』の不思議をさぐる
- 初期近代英国演劇を原文で読む



「専門+もう1つ」日吉発の2つのプログラム

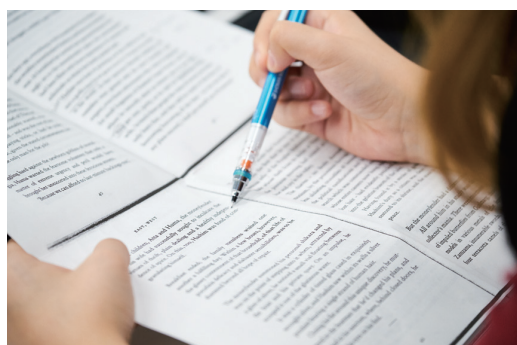
事前選考はありませんが、所定の単位を取り終わった段階で認定申請すると、商学部長による認定証が授与されます

国際教養プログラム

グローバル化が進む現代社会にふさわしい人材を育てるために、外国語を使ったコミュニケーション能力を高め、外国の文化・社会・歴史への理解を深めるための、独自の国際教養プログラムをスタートさせました。

外国語で学ぶ・研究する・発信する力をつける

英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏の5つのプログラムがあり、外国語運用能力とそれぞれの地域に関する知識をバランス良く学ぶことができます。三田キャンパスでも引き続きスキルを磨き教養を深める授業が用意されています。多くのクラスは少人数なので、集中して学習し、外国語を駆使した研究・発表能力を養成する良い機会となるはずです。



外国語科目

英語圏

ドイツ語圏

フランス語圏

中国語圏

スペイン語圏

数理科学プログラム

商学部の専門分野では、数学の基礎学力や知識が必要とされることが多くあります。統計データや経済現象の分析に役立つ数学的な考え方に慣れ親しんでもらうためにスタートしたのが、この数理科学プログラムです。

数学的思考を養い未来への解析力を育てる

商学各分野では数を扱うことが多くあります。金融系、マーケティングなどは、統計学やコンピュータを駆使したデータサイエンスの様相を呈しつつあります。そんな時代に向けて、数学の基礎知識に親しみ、数字に強い人材となるためのプログラムを用意しました。将来、数学を一つの有用かつ強力なツールとして活用していきたいと考える人に推奨します。



三田ライフ

半学半教を実践する研究会で さらに専門性を極める2年間

伝統の半学半教の教えのもと、三田での学びの中心に位置付けられるのが研究会（ゼミナール）です。専門的な知識を学びながら、自らの考えを形成し、議論する訓練をします。担当教員の指導のもと、少人数で学びあった絆は卒業後も続いています。



A 経営学フィールド

牛島辰男研究会

企業の経営戦略を学ぶことで、組織の課題を大局的にとらえる視点と、問題解決のための思考力を身につけていく



経営学は企業をはじめとする組織のマネジメントを、経営者など組織リーダーの立場から考える学問です。研究会では、企業がよりよい業績を実現していくために活動の指針とする経営戦略にかかわる問題を主に取り上げています。学生自らが実際の企業の事例を探し、解釈することで、応用力が身に付くようにしています。また、様々な分析手法やデータに早くから親しむことで、学生生活を締めくくる卒業論文のための研究を、企画・実行する力を養っていきます。

Alumni voice

中川圭一朗 2020年度卒業
出身高校：済美平成中等教育学校
（愛媛県）

当研究会は牛島教授ご指導の下、学生間でディスカッションを行っています。仲間と意見を交わして何かを考えることができる時間、またその中で学ぶ新しい物の見方は、研究会に入ることで得られた貴重な財産であると感じています。



B 会計学フィールド

吉田栄介研究会

会計知識の活用や管理会計という観点のみならず、多角的な視点から物事をとらえ、本質を見抜く力を身につける



3年生は、会計の視点から数字を用いて企業研究を行い、明瞭かつ効果的なプレゼンテーションの仕方を会得し、その後は各班に分かれて三田論の執筆とインゼミでの発表に向けて、ブラッシュアップしていきます。4年生は、3年生を全面的にサポートしつつ、4年間の集大成である卒業論文作成のために研究に励みます。少人数であるからこそ、先生をはじめ、先輩方が一人一人に目をかけてくださり、一体感のあるゼミ活動となっています。

Alumni voice

土居夏菜 2019年度卒業
出身高校：横浜国際高等学校卒業
（神奈川県）

長いようで短い大学生活。何か1つでも力を尽くした、と胸を張って言えることを見つけない方にとっては、自分が興味のあることを、尊敬する仲間達に囲まれながら学ぶことのできるゼミでの経験はかけがえないものになると思います。





C 商業学フィールド

白井美由里研究会

消費者がどのようにして製品やサービスの購買に至るのかを分析し、企業の効果的なマーケティング戦略について考える



企業のマーケティング戦略の成功には、消費者行動の理解が不可欠です。どんなに優れた製品やサービスを開発しても、消費者がその特徴を理解して購入に至らなければ意味がありません。しかし、消費者の購買に至る意思決定には、企業の戦略の他、状況特性、製品特性、消費者特性など多様で複雑な要因が影響します。当研究会では、そうした要因も含めて様々な戦略に対する消費者反応を分析することで、消費者の心理的プロセスの解明を目指しています。

Alumni voice

杉野友樹 2018年度卒業

出身高校：千葉県立東葛飾高等学校
(千葉県)

当研究会では行動心理学を専攻し、論文の輪読やディベートを通して専門的な知識やコミュニケーションスキルを身に付けます。また、当研究会は比較的新しい研究会であり、運営方針に対する意見が積極的に反映される点も大きな魅力です。



D 経済産業フィールド

大津敬介研究会

グローバル社会を見据え、世界共通の経済理論とデータ分析の手法を用いて日本経済における様々な問題を斬る



企業を取り巻く社会の経済活動全体を学ぶ産業・経済領域において、計量経済学分野では、経済理論に基づいて経済モデルを作成し、経済データの分析を通じてそのモデルの妥当性に関する実証を行います。当研究会では、グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、英語による教科書輪読・プレゼン・ディスカッションを通じて経済学に関する理解を深め、学生自身の興味関心に基づいて日本経済の諸問題に関する実証分析を行っています。

Alumni voice

東前俊一 2019年度卒業

出身高校：Ridgewood High School
(米国NJ州)

当研究会は日本経済とデータ分析を英語で学習しています。英語で学習していることもあり、グローバル志向なメンバーが多く、そんなメンバーと研究を重ね、研究結果を海外で発表する機会がある研究会で過ごす時間はとても充実しています。



Course & System

資格取得・就職・進学など、多様な進路

公認会計士試験合格者を 大学別で 最も多く輩出しています

商学部では公認会計士や税理士を目指す学生をサポートしています。50年間連続して大学別合格者数トップの実績を誇り、全合格者数の10%以上を塾生や塾員が占めています。本塾出身の公認会計士・会計士補はすでに4,000人を超え、なかでも商学部出身者は確固たる地位を固めています。卒業後の進路では近年、ジャーナリズム、情報産業、官公庁に進む者も増える傾向にあります。

2024年度公認会計士試験合格者 出身大学トップ10

順位	大学名	合格者数
1	慶應義塾大学	171名
2	早稲田大学	131名
3	明治大学	81名
4	中央大学	63名
5	東京大学	60名
6	京都大学	55名
7	神戸大学	54名
8	同志社大学	52名
9	一橋大学	50名
	立命館大学	50名

公認会計士試験
大学別合格者数
**50年連続
第1位**

その他の資格・試験

- 税理士試験
- 中学校・高等学校教員免許
- 公務員試験など

※公認会計士三田会調べ(院卒・会計専門職大学院卒は出身校別人数に含まず)

多様な個性を受け入れる 3つの入試制度

一般選抜

一般選抜試験によって選抜する方式で、高等学校卒業までに蓄えた学力を筆記試験の得点で計ろうとするものです。A方式(外国語、地理歴史、数学)、B方式(外国語、地理歴史、論文テスト)の2つの方式があります。

留学生入試

外国高校出身の留学生が対象です。

学校推薦型選抜

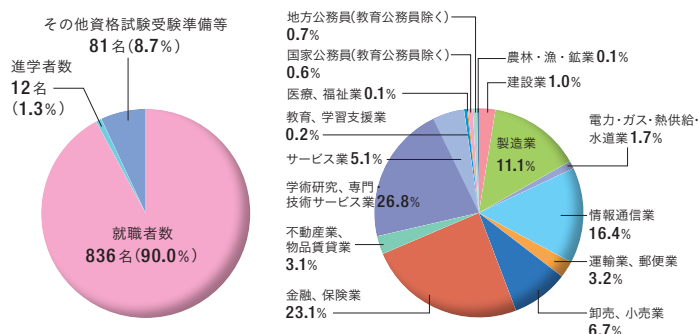
指定校から学校長推薦に基づく学校推薦型選抜制度です。学業以外にも優れた実績を持つ、個性豊かな学生を求めています。

入試についての問い合わせ先：慶應義塾大学入学センター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 ☎03-5427-1566(直通)

卒業後の進路

2023年度商学部卒業生就職状況

(2024年度5月1日時点の進路届に基づく)



【上位就職先企業】(人数)

ペイカレント・コンサルティング	34	アビームコンサルティング		SMBC日興証券	8
EY新日本有限責任監査法人	23	野村證券		キーエンス	
三井住友銀行	17	みずほ銀行		日本航空	
デロイトトーマツコンサルティング合同会社	14	三菱UFJ銀行		博報堂	
有限責任あざ監査法人	12	有限責任監査法人トーマツ	10	三菱UFJ信託銀行	
三井住友信託銀行		デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社	9	明治安田生命保険相互会社	
アクセンチュア	11	農林中央金庫			

Accounting Research and Education Center

商学部の附置機関

会計研究室

公認会計士になるには金融庁の公認会計士・監査審査会が実施する公認会計士試験に合格した後、3年間、実務を経験し、また、実務補修を受け、日本公認会計士協会が行う修了考査に合格しなければなりません。税理士になるには国税庁の国税審議会が実施する税理士試験(通常は大学3年次から受験可)に合格し、また、2年以上の実務経験を有していなければなりません。

会計研究室は上記のような会計のプロフェッショナル(公認会計士・税理士)を目指す塾生諸君ないし目指すかもしれない塾生諸君を対象として、ガイダンス、講演会、監査法人見学会等、種々の啓蒙的なイベントを企画・実施しています。

学びを充実させる多彩な支援・制度

国際交流

慶應義塾派遣交換留学制度

本塾と世界の有力大学の間で全学学生交換協定を結び、学生を1学年間派遣。250名以上の塾生が交換留学生として世界の大学に派遣されています。また、全学交換留学のほかにも多くの留学生が本学で勉学に励んでおり、現在、その数は80カ国以上、2,171名に上ります。

交換留学など、学則に定められた「留学」と認められ、海外の大学で正式な手続きを経て正規生と同じ授業を受ける場合には、留学先の大学で取得した単位を一定範囲まで卒業に必要な単位として認定する制度があります。認定された単位数と商学部で取得した単位数の合計が進級条件を満たせば、留学期間は1年間に限り慶應義塾大学の在学年数に算入され、帰国後に遡及して進級することも可能です。在学中に留学しても4年間で卒業できる道が開かれます。

短期海外研修プログラム(夏季・春季)

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休校期間中に開催。米国や英国、フランス等で短期集中型の国外学習を経験できる貴重な機会です。

※下記 国際センター ウェブサイトでは、その他オンラインで参加可能な短期留学プログラム等を随時掲載しています。
国際センター <https://www.ic.keio.ac.jp/>

【慶應義塾大学から世界へ】

人数	国・地域	人数	国・地域
96	米国	5	シンガポール
66	フランス	4	ポーランド
37	英国	3	オーストリア
27	ドイツ		台湾
26	オーストラリア		デンマーク
24	カナダ		ニュージーランド
20	イタリア	2	インドネシア
	オランダ	1	アルゼンチン
	中国		タイ
19	スイス		トルコ
12	スウェーデン		ハンガリー
11	大韓民国		フィンランド
9	スペイン		ベトナム
8	ノルウェー		南アフリカ
7	ベルギー		

合計432名

(2024年5月1日現在) ※2カ国に派遣するプログラムがあるため種類別派遣留学生数の合計とは異なる。

【世界から慶應義塾大学へ】

人数	国・地域	人数	国・地域
942	中国	15	インド
430	大韓民国	12	オーストラリア
115	フランス		スイス
97	台湾	10	マレーシア
84	米国	9	フィリピン
41	ドイツ		ブラジル
36	イタリア	8	スウェーデン
35	インドネシア		トルコ
30	英国		ミャンマー
	タイ		モンゴル
28	ベトナム	7	ノルウェー
24	シンガポール		ポーランド
22	カナダ		ロシア連邦
20	スペイン	6	パキスタン

その他5名3カ国、4名7カ国、3名6カ国、2名12カ国、1名26カ国

合計2,171名

(2024年5月1日現在) ※交換留学および私費留学について記載。

奨学制度

主な奨学制度一覧

【入学前申請】

奨学制度名	種別	金額(年額)	期間	備考(対象など)
学内 学問のすゝめ奨学金	給付	60万円 入学初年度は上記金額に入学金相当額(20万円)を加算 成績優秀者は翌年度の奨学金額を80万円に増額 ※採用された学生が国の「高等教育の修学支援新制度」の対象となる場合は、奨学金の支給額が減額となることがあります。	最長4年 ※毎年継続 審査あり	一般選抜前に申し込み、書類選考により候補者認定を受けた場合、入学後の奨学金給付が約束される制度。対象は首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)以外の日本国内の高等学校等出身者で、一般選抜に合格し、入学後に所定の手続きを行うことが受給の条件となる。550名以上を奨学生候補者として採用予定。毎年継続申請を行い審査を受けることで、卒業まで継続して奨学金を受給できる。

【入学後申請】

奨学制度名		種 別	金 額 (年額)	期 間	学 年	奨学生数(2024年度実績)		備 考 (対象など)
						申請者数	採用者数	
学 内	慶應義塾大学 給費奨学金	給付	50万円もしくは25万円	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	— 233	— 198	経済的に修学困難であると認められ、勉学の意欲を持ち、成績・人物ともに優秀な者。
	慶應義塾大学 修学支援奨学金	給付	学費の範囲内	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	34 103	28 68	
	慶應義塾創立150年記念 奨学金(海外学習支援)	給付	海外学習の種別により、 年額10万円・20万円・30万円	1年	1年生 2年生以上	0 5	0 2	経済的理由により、海外学習活動に参加することが困難な者。対象は、海外短期留学、私費留学、語学研修、国際インターンシップ、海外フィールドワーク、国際学会発表等。
	慶應義塾維持会奨学金	給付	医・理工・看護医療・薬学部 80万円 その他学部 50万円	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	72 231	31 104	
	指定寄付奨学金	給付	奨学金により異なる (10万円～60万円程度)	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	324 1,197	25 71	三田会(同窓会)や篤志家等より寄付された資金で運営。学部・学年・出身地など申請資格が限られる場合がある。

Graduate School of Business and Commerce

大学院

概要

進路

商学研究科

修士課程

- 入学定員：80名
- 専攻：商学

後期博士課程

- 入学定員：20名
- 専攻：商学

商学研究科の基本理念は、福澤諭吉の「実学」の精神を継承し、理論と実証を通じて現代のグローバルな産業社会を把握し、進歩と変革の方法を洞察することです。この理念のもと、商学研究科では社会のリーダーとなりうる研究者やプロフェッショナルの育成を目指しています。商学研究科では多彩な教授陣による総合的・体系的な特色あるカリキュラムを設置して、専門的な知識と広い視野の修得を両立していきます。

修士課程では、後期博士課程に進学する将来の研究者、ならびに経済社会の運営に中心的な役割を果たせるプロフェッショナルや企業経営者、社会システムのリーダーを養成します。後期博士課程では、国内外の大学、研究機関、シンクタンク等で活躍する質の高い研究者を養成します。

大学院に関する
お問合せはこちら

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学学生部学事グループ商学研究科担当 03-5427-1558

慶應義塾大学 商学部

慶應義塾大学 ウェブサイト



<https://www.keio.ac.jp/>

商学部 ウェブサイト



<https://www.fbc.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学商学部 学部案内
慶應義塾大学発行

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

03-5427-1566(入学センター)

045-566-1014(日吉学生部)

03-5427-1558(三田学生部)

発行日 2025年4月1日